

9) 歯科医院配布用雑誌「白い玉」について

“Shiroitama” …A Fun-Filled Childrens’ Magazine ; Private Practices’ Tactic for Educating Young Patients

広島県 松田信隆, 小島敏嗣

Nobutaka Matsuda and Toshitsugu Kojima, *Hiroshima*

現在、患者への歯科衛生啓発活動はそれぞれの歯科医院によって、パンフレットや小冊子の配布、院内テレビによる放映、院内書棚への啓発書設置など種々な方法で行なわれている。

雑誌「白い玉」は発行所東京市牛込区若松町百八番地緑川宗作主宰白い玉社により大正10年8月1日創刊（終刊不明）の歯科医院での配布用に発行されたと思われるもので毎月1回1日発行、B6版48ページの小冊子で表表紙は春本文寿によるいかにも大正時代を感じさせるカラー絵で飾り、裏表紙は歯に関係する絵を同じ春本の手により画いている。

定価は1冊15銭、1部ずつ1年分1円50銭、10部ずつ10円30銭、50部ずつ50円、100部ずつ90円である。

これは子供読者を対象として編集されていて、白歯童子、鰐顔の王子といった長編童話、狐の失敗、船頭と狸、鼻の涙、ばらの花と太郎、犬の子といった短編童話の中から2・3編でページの大部分を占め、あとは「體を丈夫にする方法に就て」の内容で綴方、童謡、自由画、一口噺を募集し、入選作があれば掲載を行なっている。

硬い学術的内容はほとんどなく、歯にはほとんど関係のない童話などで子供に自然と歯の大切さについて知らしめるものとなっている。

1ページの前と最終ページの後に1枚ずつ歯科医の名入文章が入れられているが、これは購買部数が多くなると定型の文章に名だけ入れるサービスがあったものと考えられる。